

令和 8 年 5 月 2 7 日
第 1 回 会 議

いすみ鉄道について

いすみ鉄道が担う地域公共交通の
あり方検討会議



- 1 会議規約について
- 2 いすみ鉄道の現状と課題
 - (1) 沿革
 - (2) 路線
 - (3) いすみ鉄道への支援
 - (4) 脱線事故について
 - (5) 復旧に向けた取組
- 3 今後の検討事項及び進め方

1 会議規約について

(1) 名称

いすみ鉄道が担う地域公共交通のあり方検討会議

(2) 目的

令和6年10月に脱線事故が発生したいすみ鉄道について、現状と課題、沿線地域の交通ニーズなどを踏まえながら、地域においていすみ鉄道が果たすべき役割やそのあり方について、多角的な視点から検討を行う。

(3) 構成員

【委員】

- ・千葉県 国際・交通担当部長 田中 泰史
- ・いすみ鉄道株式会社 代表取締役社長 古竹 孝一
- ・流通経済大学経済学部 教授 板谷 和也
- ・いすみ市 副市長 石野 正行
- ・大多喜町 副町長 西郡 栄一
- ・勝浦市 副市長 竹下 正男
- ・御宿町 副町長 田邊 義博

【オブザーバー】

- ・関東運輸局
- ・(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構
- ・株式会社千葉銀行
- ・小湊鐵道株式会社

2 いすみ鉄道の現状と課題

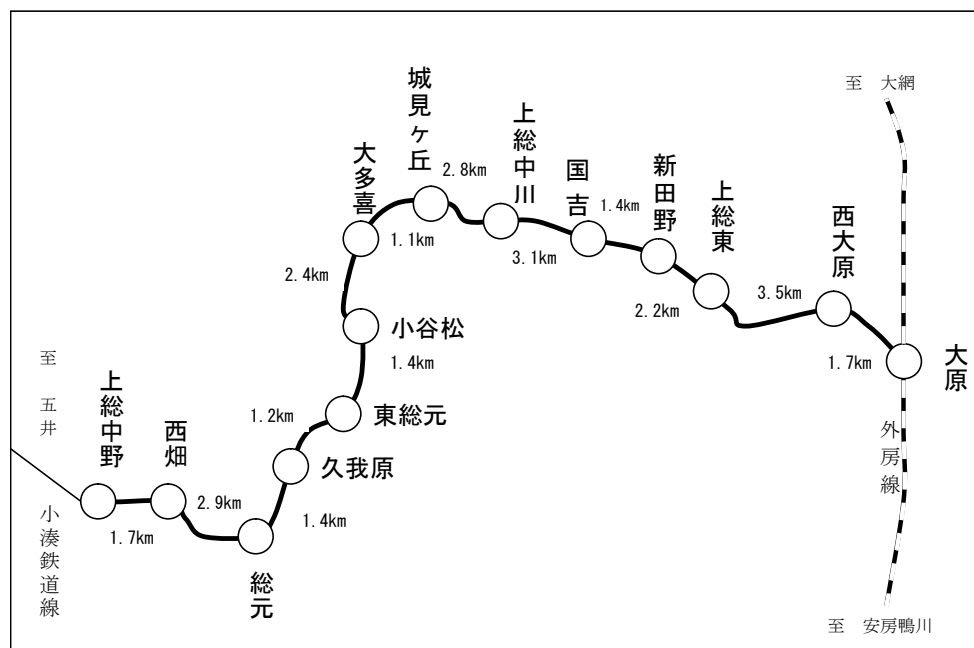
(1) 沿革

- 旧国鉄木原線が廃止検討対象とされた際、地元の意向を踏まえ、第3セクター鉄道として、千葉県や関係4市町等の出資により、昭和62年に設立

会社名	いすみ鉄道株式会社	株主	出資金	出資比率
所在地	千葉県夷隅郡大多喜町大多喜264番地	千葉県	92,000千円	34.2%
会社設立	昭和62年7月7日	大多喜町	40,800千円	15.2%
種別	第1種及び第2種	いすみ市	38,400千円	14.3%
事業区間	大原～上総中野(26.8km) 駅数：14	勝浦市	4,400千円	1.6%
資本金	授權資本 4億円 払込資本2億6,900万円	御宿町	4,400千円	1.6%
役職員数	役員8名(非常勤7名)、社員51名 ※R8.4.6現在 (正・準社員：39名(うちJR出向：6名)、パート社員：16名、派遣社員：2名)	その他 (民間法人等)	89,000千円	33.1%
		合計	269,000千円	100.0%

2 いすみ鉄道の現状と課題

(2) 路線



- 東側のJR大原駅から、西側の小湊鉄道
上総中野駅までの14駅26.8kmをディー
ゼル車両でつなぐ
- 大多喜高校への通学など、地域住民の
足として利用されている
上総中野駅で小湊鉄道と接続し「房総
横断鉄道」としての側面も持つ

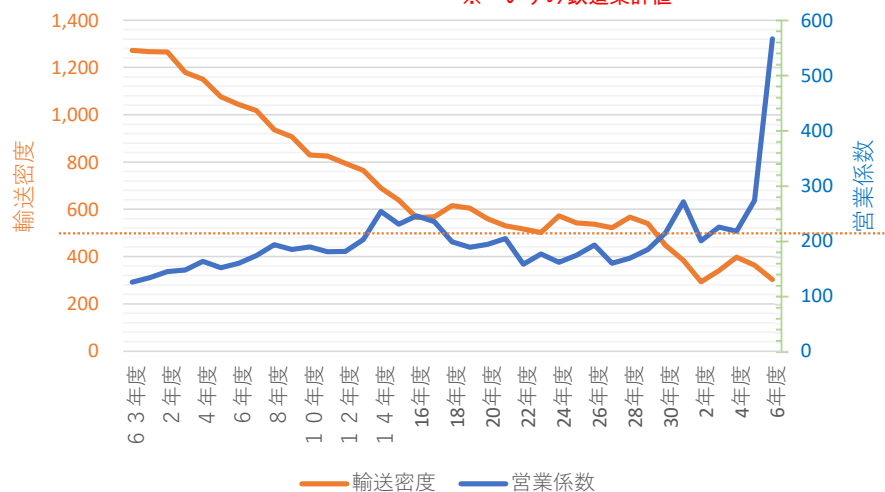
運行状況 (鉄道ダイヤ)	運行本数	大原～大多喜 平日上下計26本 (土休日24本)	*小湊鉄道との接続本数 平日 上下各5本 土休日 上下各5本
		大多喜～上総中野 平日上下計24本 (土休日16本) (うち大原～上総中野 平日上下計21本 (土休日15本))	
	所要時間	大原～大多喜 約30分	保有車両5両 (すべてディーゼルカー) ※キハ52はR7.3月で営業運転を終了
		大原～上総中野 約60分	

2 いすみ鉄道の現状と課題

- 利用者数（輸送密度）は、旧国鉄から運営を引き継いだ当初から、約1,200人と国鉄廃止検討の対象選定における基準2,000人を下回っていたが、その後も減少を続け、脱線事故前の令和6年は364人と、会社発足時の約3分の1となっている。
- また、利用者数（駅別の乗車人員数）は東側区間（大原駅～大多喜駅）が約8割を占めている。

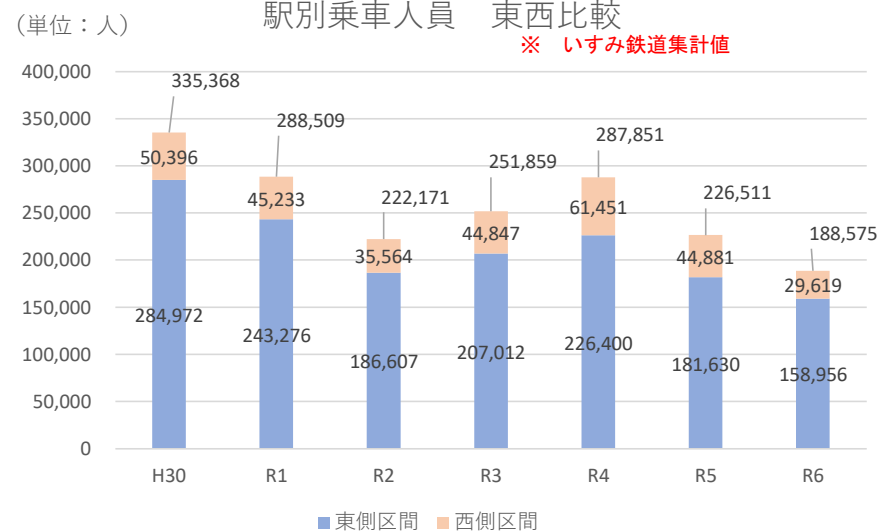
輸送密度及び営業係数の推移

※ いすみ鉄道集計値



駅別乗車人員 東西比較

※ いすみ鉄道集計値



2 いすみ鉄道の現状と課題

(3) いすみ鉄道への支援

ア 利用促進

鉄道事業者による各種活性化策や、地域住民の活動、地元自治体による施設整備・イベントでのPRなどによる利用促進を図ってきた。

① 鉄道事業者の活性化策

- ・ 企画乗車券（房総横断記念乗車券等）
- ・ レストラン列車（お弁当列車等）
- ・ 関連グッズ販売（「い鉄揚げ」等）
- ・ ネーミングライツ（8駅）
- ・ コラボ企画（クラファン、MaaS、スタンプラリー）

② 地域住民の活動

- ・ 大多喜高校いすみ鉄道対策委員会（補修、美化活動等）
- ・ いすみ鉄道友の会（美化活動、イベント等）

③ 自治体による施設整備

- ・ 新改札や新駅、駐輪場、トイレ整備
- ・ 市町主催イベント等でのPR・利用呼びかけ

いすみ鉄道ランチクルーズ
ゆるり奥房総の旅

都心から近く日本の原風景を眺められるお弁当列車。
山の幸海の幸を堪能する奥房総の旅。

たすきプロジェクト

2025
4.26
プロジェクト第二弾スタート!

小湊鉄道 いすみ鉄道 ちばぎん ちばぎん商店

たすきプロジェクトとは？

房総半島を横断する小湊鐵道・いすみ鉄道沿線エリアの活性化を目的として、千歳にまつわる新商品やイベントを取り扱うクラウドファンディングサイト「C-VALUE クラウドファンディング」連動の特別企画「房総横断鉄道たすきプロジェクト」を実施します。本企画では「エリアの未来を担う商品・サービス・イベント」の発掘・創出を目指します。

房総横断鉄道 たすきプロジェクト 紹介動画公開中！

2 いすみ鉄道の現状と課題

イ 補助金

- 他の地域鉄道と同じ国との協調補助のほか、平成20年からは、「みなし上下分離」の考え方による補助を開始
- 令和元年からは、前年度の鉄道事業損失額に対する補助も実施

補助制度

	対象経費	補助率
令和元年～	上部経費 鉄道事業経常損失額－付帯事業利益額の1/2	県1/2、市町1/2
	下部経費（国との協調分） 枕木交換、踏切設備等	国1/3、県・市町1/3
平成20年～	下部経費（国との協調分以外） 上記下部経費の1/3や、施設整備に係る 人件費等、国補助金の対象にならない経費	県1/2、市町1/2

近年の補助額

(単位：千円)

年度	支援額計	国	県	市町	その他 (基金等)
R3	193,774	9,467	90,417	90,417	3,474
R4	194,725	11,552	89,472	89,472	4,230
R5	279,491	23,256	111,103	111,103	34,029
R6	361,727	18,098	117,740	117,740	108,149
R7 (予算)	694,213	16,100	289,055	289,058	100,000

2 いすみ鉄道の現状と課題

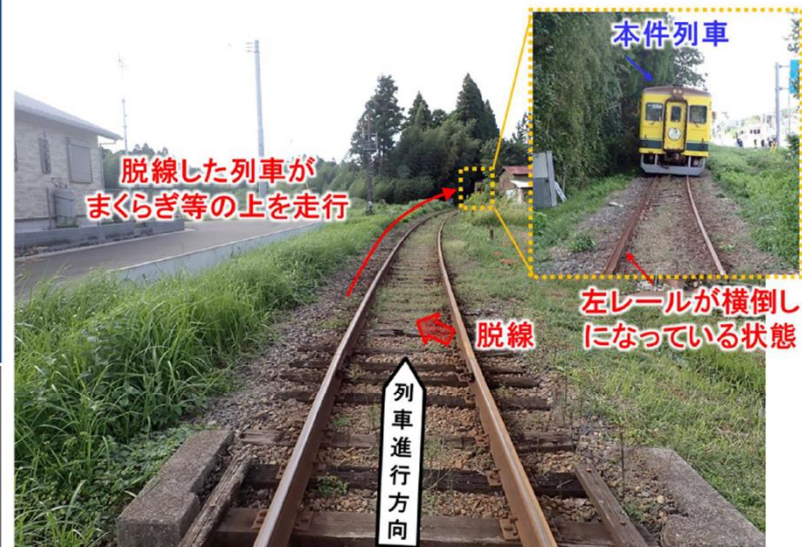
(4) 脱線事故について

事故の概要

- ◆ 発生日時：令和6年10月4日 08時06分頃
- ◆ 発生場所：いすみ線 くによし 国吉駅～かずきなかかわ 上総中川駅間
(千葉県いすみ市)
- ◆ 概要：本件列車(2両編成)が速度約41km/hで半径300mの右曲線を走行中、先頭車両の後台車全2軸及び、後部車両の全4軸が左側に脱線した。列車には、乗客104名、運転士1名が乗車していたが、負傷者はいなかった。



《事故現場の状況》



曲線中の軌間変位が大きかった。

腐食やひび割れが発生しているまくらぎが連続していた。

➡ 軌間が大きく拡大 ➡ 軌間内脱線

2 いすみ鉄道の現状と課題

(5) 復旧に向けた取組

- ・ 現在、利用者が多い東側区間（大原駅～大多喜駅）について、令和9年秋頃の復旧を目指している
- ・ 残る西側区間（大多喜駅～上総中野駅）については、復旧費用や中長期コストなどの全体像を明らかにした上で協議していくことを公表している

(試算結果)

- ・ 西側区間（上総中野～大多喜）運行再開に必要な工事費用は約10億円
- ・ 運輸安全委員会の勧告を踏まえ、継続的に安全運行をしていくためには、事故前と比べてランニングコストを年間1億円程度増加させる必要があり、全線で約50億円/10年

(いすみ鉄道試算)

中長期コスト (R9～18)

項目	負担額	主な内訳
人件費	21億円	保線業務を適正人数で遂行していくための増員を含む
維持管理費用	20億円	軌道施設管理、車両整備、PCマクラギ導入など
その他費用	8億円	車両更新費用、諸税など

運輸安全委員会勧告 (R7.10.2)

- ① 軌道変位を補修する軌道整備基準値を再検証し見直すこと等も含め、適正な軌道変位の管理方法を検討し、規定に基づき適切に軌道変位の管理・補修を行うことができる体制を構築すること。
- ② 平成30年6月28日に運輸安全委員会が国土交通大臣に対し発出した意見の別添「軌間拡大による列車脱線事故の防止について」に記した対策を踏まえ再発防止に向けた必要な措置を検証し、PCまくらぎ化等についてできるだけ早期に実施できるよう計画を策定すること。

なお、上記の施策を実施するに当たっては、国や関係自治体からの協力を得つつ、社外からの知見を得るための技術支援等を積極的に活用していくことが望ましい。

3 今後の検討事項及び進め方

(1) 今後の検討事項

- ・ いすみ鉄道の利用状況・経営状況の分析
- ・ 沿線地域のニーズ調査の実施（住民アンケート、実態調査）
- ・ 東側区間の安全運行の確保
- ・ 沿線地域の観光振興
など

(2) 今後の進め方

令和8年度

- ・ 第1回（令和8年5月）
会議規約、いすみ鉄道の現状・課題、検討事項及び進め方 など
- ・ 第2回以降
検討会を2回程度開催し、利用状況・経営状況、需要調査手法、東側区間の安全運行の確保などの検討を行う

令和9年度

- ・ 年度内に検討会を2回程度開催し、提言の取りまとめを行う